

自分の家だけ
きれいなになれば
それでいい?



テレビなどでも、最近少しでも「へらしましよう」と呼かけていますが、家庭内で思うのはやはり、一時しか使わないでゴミになってしまうポリバッグ、肉魚のトレー、ペットボトル、缶 etc・・・。

いたましいと思います。土にかえられないゴミが多すぎて増える一方ですよね。

いまモデル地区で分別収集が行われているようですが“早く全市になればいい”と思います。

面倒だとは思いますが、習慣になればあたりまえのことになってしまいますから。

それと便利だとか、安いとかだけではないでしょうか。なるべくリサイクル商品を使う、ゴミになるような物を買わない工夫が必要だと思います。

自分の家だけきれいになればいいと思う気持ちはすてなければいけないですね。

栄町 20代 主婦



“鍵あけ”は

として他の地域でも実施される方がいいのではないのでしょうか。

市役所も事業主も 市民も協同して

ごみステーションの管理と同じように多くの人が清掃活動に参加する。今まで市役所や町内会、団体のボランティアのすることといった意識が強かったのではないのでしょうか。

これからは、事業者も自己管理地や建物周辺の清掃を心がけることが大切です。汚れた処理より、汚さない

い実践が環境美化の基本です。このことを街中に呼かけたのが「るもい」の街をきれいにする週間」です。

運動会やお墓参りのときのごみ持ち帰り、犬の散歩時の糞の後始末、ごみ運搬車両のシート掛けなどあらゆる方面から実践と呼かけによる環境美化推進事業が今年から春と秋実施しています。

市民と事業主と市役所がそれぞれの役割と責任をしっかりとおさえ、協同して環境にやさしいごみ処理ときれいな街づくりを築き上げることにそれが目指す道です。



きれいな街への合言葉

染などの不安があるため、最終的には、環境にやさしいごみ資源有効利用方式を取り入れることになりました。

生まれました 留萌方式

これまでごみは、家の前に出したり、道路角等に数件が集まってネットをかける方式や箱型の金網付きごみステーションを利用するといった三通りの方法で出してきました。

しかしこの中で問題がいくつかありました。混合で出すので生ごみが含まれネットをかけるだけでは収集の時間までにかからずや犬、猫等による飛散が目につきました。また、ステーションも市役所の清掃指導や利用者間で決まりをつくり掲示していても収集日を守られず、環境悪化が生じていることです。

又、ステーションの中に保管してある回収ボックス

が無くなる事態が生まれました。そこで犬猫やカラス対策、貴重な税で購入した財産の管理は利用者でしよう。ごみが決められた日以外は出ないようにステーションの鍵かけをすることになったのです。

ごみを出す人とステーションの鍵あけや清掃、除雪する人が別では不平等であり管理が続かない。だから、利用者みんなの輪番制によって管理するのが一番ということになり鍵あけの当番や順番や時間を話し合い結果「留萌方式」が生まれまし

た。当番の人が朝七時ころ鍵をあけ、分別用品をステーションの前に並べ、汚れたところの清掃、冬の除雪をします。鍵とともに利用者の間をグルグル回り全体で管理する方式です。鍵しめは収集に行った収集職員がします。この方式は全市民分開始に向けてモデル地区だけでなく環境の美化推進